

1. 留学先・期間

厦門理工学院 国際教育学院基礎漢語学科

2013年9月～2014年8月

2. 厦門市について

厦門市は平成7年に宜野湾市と友好都市になった中国南東にある都市です。中国の五大経済特区の一つであり、日系企業も多く進出しています。また「海上の花園」とも称され、中国では人気の観光地の一つとなっています。沖縄本島の1.4倍ほどの土地に、約3倍の人が住んでいます。

3. 志望理由と留学前の準備

小学生の頃から卓球と書道を習っており、中国の文化などに親しみを持っていました。また、大学に入り第二外国語として中国語を学びはじめ、一年生の6月頃から、中国へ留学に行つて中国語や中国の文化などをもっと学びたいと考えるようになりました。同じ専攻の先輩である比嘉美和さんが宜野湾市の事業で厦門へ行くことを知つてからさらにその思いが強くなり、授業以外でも留学生と交流したり中国語の検定取得に向けて勉強したりと、留学に向けての準備を進めていました。

留学が決まつた後、厦門について詳しく調べようとしても、厦門は日本ではあまり知られておらず、インターネットや旅行のパフレットなどでもほとんど情報が得られないという状況で、初めはとても不安を感じました。しかし、比嘉さんから厦門での生活の様子や必要なものなどを事前に教えていただき、比嘉さんの帰国後に引き継ぎ式を行ったことで少し不安を軽減させることができ、期待をふくらませての厦門へ出発となりました。

4. 厦門での生活がスタート

沖縄でも中国語を勉強して行つたので、少しは中国語でコミュニケーションが取れるだろうと思っていましたが、いざ中国人と中国語で話してみると話すのがとても速く聞き取れず、また私の発音も悪く伝わらず、最初の1～2か月は主に先生方や英語学科の学生、他の留学生との英語を使つての生活でした。新しい環境でルームメイト以外の友達もおらず、ホームシックになって毎日寮で一人泣いていたのですが、このままではダメだと自分を奮い立たせ、なるべく部屋にいないでルームメイトを誘つて外に出かけたり、学校を散歩したりして少しずつ友達を増やしていき、中国語を話す機会を増やしていきました。

5. 一年間の流れ

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・厦門到着 市内の観光、先生方との食事会 入寮 ・国際貿易商談会参加 ・前期授業開始 ・中秋節 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・国慶節 ・新入生歓迎イベント参加 ・佐世保高専との交流会 ・泉州にホームステイ ・卓球部入部
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・泉州で結婚式に参加 ・運動会 ・初の厦門で沖縄県人会 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の家で餃子づくり ・期末テスト ・留学生クリスマスパーティー ・冬休みスタート ・新暦の年越し
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ルームメイト帰国 ・上海へ旅行 ・春節 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・香港・マカオ・台湾へ旅行 ・一人暮らしを始める ・後期授業開始
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・福州で沖縄県人会のシーミー ・福州・永定へ旅行 ・10期生の高江洲さんが厦門へ卒業旅行 	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・泉州で清明節を過ごす ・醬油工場見学
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・労働節 ・校内留学生朗読大会 	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・端午節 ・校内朗読大会 ・期末テスト ・他の留学生たちが帰国
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・HSK 5級試験 ・北京・内モンゴルへ旅行 ・厦門の観光地めぐり 	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を家に招いてお別れ会 ・HSK 5級合格 ・台湾へ旅行 ・帰国

6. 学校生活

【寮生活】

中国の大学はほとんどが全寮制で、厦門理工学院でも学生はみな学校内の寮に住んでいましたが、長期休暇になると寮を出なければならず、留学生には不便だということで、学校の外に寮がありました。学校からバスで一駅のところにある一般の団地の数部屋を学校が寮として借りていて、私たち留学生はそこに2人から4人で住んでいました。敷地内に幼稚園やスーパー、食堂があり、部屋には洗濯機やテレビ、冷蔵庫なども完備されていてとても便利です。私は初めの半年は韓国人3人とルームシェアをして、後半は一人で住んでいました。

韓国人の留学生と一緒に住んでいるときは分担して掃除をしたりご飯を作ったり、一人暮らしのときは中国人の友達を呼んでパーティーをしたり他の留学生の部屋へ行ったりと、どちらも違う楽しさを味わいました。

【食事】

食事は、朝昼晩のほとんどを学校の食堂で食べていました。学校は全寮制で自炊できる場所もないため学生や先生などほとんどが食堂でご飯を食べます。学内に4つの食堂があり、中はフードコートになっていて、毎日自分の食べたいものを選んで食べることができます。さまざまな地域の料理があり、何を食べようか考えるのがとても楽しみでした。

学校の向かい側にもいくつかの食堂が集まっている場所があり、たまに友達と外で食事をすることもありました。学校の食堂ではそれぞれが食べたいものを買ってそれぞれ自分のものを食べますが、外で食べるときは大皿の料理をいくつか頼んでみんなでシェアするので、いろいろな料理を食べることができました。

留学生や外国人の先生何人かで誰かの部屋に集まり、一品持ち寄りで食事をすることもありました。その中にはイスラム教で豚肉が食べられない人やベジタリアンもおり、全員が食べられるものを作って持っていくのが決まりでした。調味料や食材などとても珍しいものも多く、みんなでレシピを教えあいながら食事をして、毎回とても楽しい時間でした。

【授業】

韓国、ロシア、ウクライナ、イギリス、ウズベキスタン、チリから来た留学生がおり、授業が始まった当初は、全員が中級クラスだったのですが、他の留学生のレベルがとても高く私はほとんど理解できず、また HSK4 級以上が対象のクラスだったということもあり、先生にお願いして初級クラスを作ってもらいました。初級クラスは私とウズベキスタン人の男子学生と二人のみで、英語と中国語の2か国語での授業で発音からしっかりと勉強することができました。毎回中国人の学生がサポートとして付いてくれて、発音や先生の話の中で聞き取れなかったところの説明をしてくれるので、とても助かりました。慣れてき

て少しずつ中国語が聞き取れるようになると、授業も英語の割合が減って行って徐々に中国語が増えていきました。後期は中級クラスになり、韓国人やアメリカ人のクラスメイトも加わって、完全に中国語のみを使つての授業になりました。

語学の授業以外にも書道や太極拳、中国ビジネスマナーなどの授業もあり、とても充実した授業内容でした。

【時間割】

〈上学期(前期)〉

		月	火	水	木	金	
午前	1限	漢字文化	初級中国語 ライティング	初級中国語 会話	初級中国語 ライティング		
	2限						
	3限	初級中国語 リスニング	初級中国語 会話	初級中国語 リスニング	中国文化		書道
	4限						
午後	5限				太極拳		
	6限						

〈下学期(後期)〉

		月	火	水	木	金	
午前	1限	中級中国語 ライティング	中西文化比較	中国文化	中級中国語 リスニング		
	2限						
	3限	中級中国語 リーディング	中級中国語 リーディング	中級中国語 ライティング	中級中国語 リスニング		書道
	4限						
午後	5限	中級中国語 HSK 対策		ビジネス中国語			
	6限						

【課外活動】

・実習

学校の課外活動で、博物館に行って中国の歴史を学んだり、醤油工場の見学に行ったりもしました。実際に働いている人から話を聞いたり質問したりすることもでき、とてもいい機会になりました。また、先生方や留学生ともたくさん話をしたり一緒に食事をしたりして、仲を深めることができました。

・サークル活動

留学でやりたかったことの一つとして、私が小学校からやっていた「卓球」がありました。「卓球」といえば「中国」というほど中国は強豪国で、町のあちこちに卓球台があり、多くの人が自分の卓球のラケットを持っています。

厦門理工学院はサークル活動があまり盛んではなく、サークルに加入しても、大会で結果を出すことを目指して毎週決まった時間に集まって練習をする、というのが目標ではなく、時間があるときに友達同士で楽しくやるという感じでした。私は友達と卓球をしにいて、そこで卓球をしている人を誘って友達とダブルスを組むなどして楽しみました。

中国では日本のアニメがとても人気で、日本の学校の部活やサークルにあこがれを持っている人も多く、日本の部活やサークルは、本当にアニメのようにみんなが一生懸命に大会などを目指して毎日練習するのかとよく質問を受けました。

・校内留学生朗読大会

厦門理工学院で毎年行われる校内朗読大会にも参加しました。項目は詩の朗読と特技の披露、自分の国・地域の紹介で、私は書道と沖縄の紹介をしました。

詩の朗読は、チューターがサポートしてくれて、2週間ほど前から準備を始め、チューターがボイスレコーダーに吹き込んでくれたものを毎日聞いて、毎日会って一緒に練習をしました。外での練習だったため最初は恥ずかしくてあまり声も出せず、発音や間も悪く、厳しく指導されましたが、何度も練習するうちに改善されてきて、音楽をつけたり自分で朗読の動画をインターネットで探して参考にしたりととても面白く、本番はいい緊張感を持って、納得のいく朗読ができました。

沖縄の紹介でも、きれいな海や首里城の写真を見せたときは「お〜！」という歓声があり、私まで誇らしい気持ちになりました。また、そのときに国際貿易商談会に参加したときにいただいた沖縄のパンフレットを配ったのですがとても受けがよく、後から何人かがもっと詳しく聞きたい、旅行に行きたいと言ってきてくれて、沖縄の魅力が伝わったことにととてもうれしく感じました。

審査員長だった国際学院の院長にも発音がとてもよかったとお褒めの言葉をいただき、一等賞を取ることができました。

7. 旅行

留学中、福建省の福州・泉州・永定・漳州、北京、上海、内モンゴル、香港、マカオ、台湾へ旅行に行きました。

中国はとても広く、言葉や文化、習慣など、地域によって本当に大きな差があり、行く場所それぞれに違った特徴があり、どこへ行くのもとても興味深く、楽しかったです。また、汽車に長い時間をかけて移動することも多く、その途中でいろいろな人と交流して、そこでもたくさんの思い出を作ることができました。

8. 留学を終えて

言葉もわからず、友達もおらず、留学が始まった当初は不安と緊張の方が強かったのですが、終わってみれば楽しい思い出ばかりで、本当にあっという間のとても充実した一年間でした。

厦門で生活を始めたばかりの頃のホームシックの経験から、なるべく外に出て人に会って、より多く中国語を話して中国の文化を感じられる環境に身を置こうと心に決めて生活をしていましたが、人との交流の中で学ぶことが本当に多く、どんどん中国語の語彙が増え、言いたいことがスムーズに言えるようになっていくのが自分でもわかるようになり、楽しんで中国語を学ぶことができました。より多くのものを見て、体験して、中国文化にどっぷりつかろうと何事にも挑戦する姿勢を持って一年間を過ごせたことで、精神的にも大きく成長できたと感じています。

日本では当たり前のことが当たり前ではなく、驚くことも多かったです。それを自分の中の常識とは違うからと否定せずに、徐々にそれも中国の一部なんだと受け入れ、良い部分に目を向けることができました。自分の意識が変わってからは、視野も広がり、より多くのことを吸収できるようになっていきました。

帰国後も中国語の検定取得への勉強を続けており、さらに中国人留学生の生活や学習のサポートをするチューターや中国語通訳のアルバイトも始めました。留學生活で学んだことを発揮するだけでなく、日々新しいことも学んでいます。

私にこの留学の機会を与えてくださった宜野湾市役所のみなさん、沖縄から応援してくれた家族や友達、先生方、それに厦門で出会ったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。厦門で過ごした一年間は、私の人生のかけがえのない財産になりました。この経験を活かし、これからもいろいろなことに挑戦して頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。